

CSU コロラド州立大学

－CSUの日本語ボランティアを経験して－

広瀬典子 (横浜市)

中条裕子 (横浜市)

滞在期間：2012年3月1日～4月7日 (38日間)

CSU

フォートコリンズは、コロラド州の中央北端、万年雪をいただくロッキー山脈の東側にあり、州都デンバーの北100kmに位置します。人口11万人の中都市です。そこにコロラド州立大学(CSU)があります。学生数は2万2千人の総合大学です。

約1マイル四方のキャンパスには、古い歴史を感じさせる石の建物や近代的な建物が点在しておりリスやキツツキ、かわいい声でなく小鳥などが、通学のたびに私達を楽しませてくれました。

授業

月 10:00→15:00 火 11:00→14:00

水 10:00→15:00 木 10:00→14:00

(この間あき時間があります。)

学生達と一緒に講義を受けました。小グループに分かれて会話をします。その時々テーマが与えられて、私達はそのグループに加わり、変な言い方を正したり、宿題を見たり、テストを返したりしました。教科書は「上級へのとびら」と凡人社の「ようこそ」などを使っていました。

学生達が苦しんでいるのは、眞子先生が作り上げた漢字練習帳でした。1ページごとに漢字が書いてあり音読み、訓読み、筆順、短文などが要求されます。生徒は一生懸命考え、授業の始まる前の少しの時間にも鉛筆を走らせておりました。ひらがな、カタカナは簡単らしく、とても上手に書いておられます。やはり漢字が一番難しいようです。

“起立！礼！これから日本語の勉強を始めます。よろしくお祈りします。”

“起立！礼！これで日本語の勉強を終わります。ありがとうございました。”

と、その生徒の明るさ、礼儀の良さ、一生懸命さ、素直さには心を打たれます。ボランティアに来ているはずなのに、先生や生徒から好意や優しさをいただいている毎日です。

学生たちとの交流

土曜日(25日)日本語学生会主催のランゲージカップがあり、50人余りの各国の学生と関係者が集まりました。ゲームや寸劇をし、その後日



折り紙を紹介

本食の肉じゃが、味噌汁、サラダ、ご飯を5～6人に分かれていただきました。肉じゃがが初めての人もあり、また日本人でも1年以上食べていない人もいて、醤油味、味噌味は好評でした。作った私も嬉しかったです。日本語での寸劇も当日のわずかな時間での準備でしたが、振り付けもせりふも、とてもよくできていました。



文化ショップで茶道をする1年生

生活と季節の変化

アパートにケーブルテレビが引かれ、見られるチャンネルも増えました。ドアの外には毎日リスが木の実をおねだりにきます。徒歩5分にあるスーパーは品揃えも豊富で新鮮で安いと、いいことづくめです。

こちらに来た時は枯れ草状態だったグラウンドの芝生も、すっかり緑の敷物に変わりました。

木々の花々も次々に咲き出しました。近くの公園の湖で遊んでいた渡り鳥やロッキーのふもとの山々の雪も消えましたが、今年は1カ月、春の訪れが早いそうです。

毎日の大きな変化を楽しんでいます。



リニューアルされ、快適になったアパート

CSUの学生の論文

－農業の衰退－

CSU：ジュリムア 10/11/11

私は去年の夏日本に行った時に、福島にも行きました。福島で、畑仕事をしました。絹さやをとったり、ちまきを作ったりして、とても楽しかったです。私は農業はとても面白いと思います。でも、今日本の農業は衰退しています。1960年から2005年までには9パーセントから1パーセントになりました。農業にしている人口は26パーセントから4パーセントに減少しました。都市化や専業農家が兼業農家になるなどが、日本の農業の衰退の理由です。

都市化のために、畑地が少なくなっています。ですから、日本の畑地を失わないようにしなければいけません。保護するために、1990年にみやざきはやおさ

んと他の四人は狭山丘陵の森を買い始めました。狭山丘陵には湖や森や畑地などがあります。狭山丘陵はとなりのトトロという映画の舞台で有名です。ですから、このプロジェクトの名前は「トトロのふるさと」と言います。1990年から6つの森を買いました。今からもっと森を買うはずで、とてもいいプロジェクトだと思います。トトロのふるさとだけでなく、もっと同じようなプロジェクトをしたほうがいいです。

また、残念なことに、多くの若者が畑仕事をしたくないというのも現実です。2005年に、農業人口の46パーセントが70才以上です。でも、これに対して農林水産省は新しいことを考えています。農地を貸したり、売ったりしたら、農民が国庫補助をもらえるというものです。でも、若者は畑地で畑仕事をしなければいけません。私はそれはとてもいい考えだと思いますけど、農林水産省はまだするかどうか決めていません。私は考えがあります。小中学生を畑仕事に連れて行ったらどうですか。そうすれば、たくさん農業について習えるし、経験できるし、子供たちは農業は面白そうだと思うはずで。

機械化も日本の農業の衰退の理由の一つです。機械化が進むことによって、多くの畑仕事の雑務が減り、作業時間も減少しました。そのため、兼業農家が増えました。2008年に専業農家は34パーセントからたった22パーセントに減少しました。もし、多くの畑地を失わなかったら、日本政府は若者に畑地を貸せると思います。この畑地で、なるべく機械を使わないで畑仕事するようになるはずで。

日本の農業衰退の問題を解決するのは、なかなか難しいです。農業人口は減少していますが、解決の方法があります。農業の衰退は大きい問題ですけど、問題をよく考えて、みんなで協力すれば、絶対解決できると思います。ご清聴ありがとうございました。

(これは、東日本大震災の前2010年夏の体験をまとめたもので、毎年あるコロラド州の日本語スピーチコンテストで、入賞したものです。原文のまま)

CSU訪問レポート

香川大学：池田和樹 12/3/20

アメリカではコロラド州立大学を訪れ、学生さんとの交流を行った。



アパートから一番近い校門

その交流活動で驚いたことは、アメリカの学生さんの日本語がとてもうまいということである。いろいろ案内や歓迎会をしてくれたのだが、みんな普通に日本

語を話せていた。普通の会話であれば不自由なく話せるレベルだったと思う。私は中学校からこれまで9年間も英語を学習してきたけれどほとんど英語を話せないし、リスニングも余りできない。これは私だけでなく、多くの日本の学生はそうではないかと思う。ここで、日本の外国語教育とアメリカの外国語教育の違いを発見することができた。コロラド州立大学の日本語の授業にも参加させていただいたが、授業中はずっと日本語を使っていて、英語はめったに使われることがなかった。このことについて尋ねてみると、1年生の前期の授業では英語で説明などしてくれるけれど、1年生の後期からは基本的に授業は日本語で行われるようになるということだった。これには本当に驚いた。私の今まで受けてきた英語の授業は基本的に日本語が使われる授業だったのでこういう違いでこんなにも外国語を話す力に差が出てくるのかと思った。また、ここには日本人とアメリカ人の学生との間の語学に対する関心の強さの違いもあるのかもしれない。(略)

これはコロラドで知ったことだが、コロラドは香川のように水に関して問題があり、ともに研究をしているというのを聞いて驚いた。いかにして広大な土地を潤していくかというのは大変な問題ではある。香川とコロラドでは広さが全く違うけれど、少しでも役に立つことがあればいいなと思う。これから勉強していつて、自分でも研究して卒業論文のテーマの一つにしようかなと思った。

コロラドは実際に訪れてみて興味を引くところが多かった。人も優しいし、香川との共通点の発見、またロッキー山脈で大きな褶曲を見たときには地球の凄さを感じられた。

私は以前から海外へ留学したいと思い、今回それへの一歩というコロラドへ行き、ますます留学したいと思った。(略)しっかり英語が話せる力をつけたい。(略)今回はボランティアという形で来ている方もいてこういう形もあるのだということがわかった。

(後半部略)

(CSUには毎年日本からの大学生の交流があり、また、CSUの学生の日本の大学への留学がある)

CSU ボランティア - 100名突破 -

10年余りの歴史を持つCSUでの日本語ボランティア活動に携わった方が、この春100名を超えました。

自然豊かなフォートコリンズでの生活を楽しみながら、住民や学生の皆様と交流し日本の文化や言葉を伝えるお手伝いができ、また自分の国を見詰め直すことができるなど、充実感のある生活を送ることができるので、多くの方々のご協力が続いてきたのだと思います。

これからも多くの方の参加を期待しています。